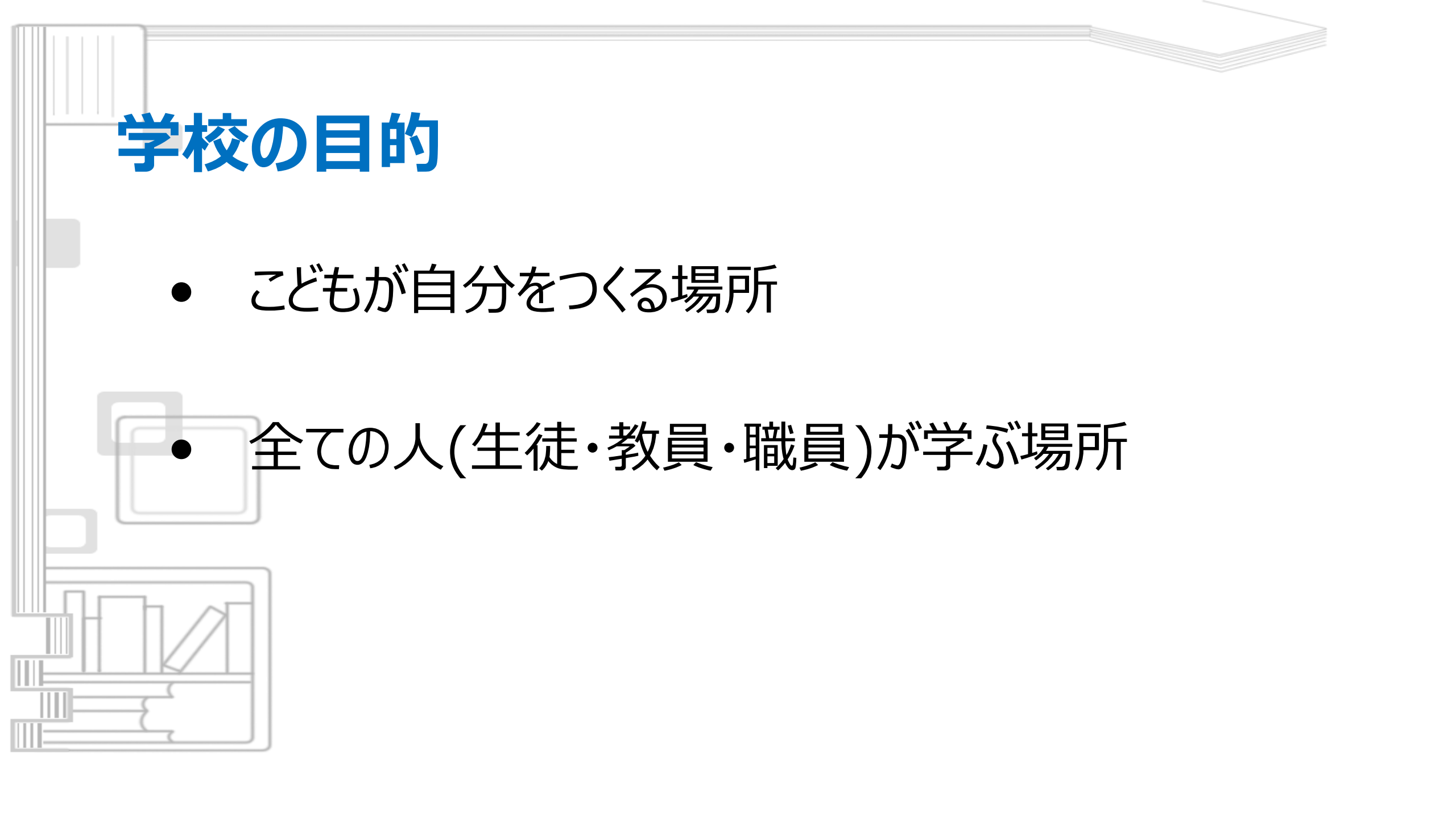




2023事業計画

鹿児島情報高等学校





学校の目的

- こどもが自分をつくる場所
- 全ての人(生徒・教員・職員)が学ぶ場所

事業目標

- 鹿児島で行きたい学校N o 1の高校になる
- 鹿児島で生徒・保護者の満足度N o 1の高校になる
- 鹿児島への貢献度N o 1の高校になる

鹿児島で行きたい学校N o 1の高校になる

学びの質の保障が重要

教職員は常に自問自答する

「今の教育に何が求められているか？」

「10年後・20年後の子どもたちの未来に何をすべきか？」

鹿児島では「本校でしか学べない、ワクワクするカリキュラム」
を創り続ける。

鹿児島で生徒・保護者の満足度N o 1の高校になる

原田学園理念の遵守

「心の持ち方」を共に学ぶ学園(学園HPへ)

教職員が常に意識すること

「子ども心を守り，子どもの夢を見守る」

鹿児島で生徒・保護者の満足度No.1の高校になる

<生徒の満足>

個別最適化の実現

生徒ひとり一人に目が向けられる学校

多様性を認める

安心・安全に過ごせる学校

進路保障

個人の希望にあった多種多様な進路が実現できる学校

生徒の夢を一つでも多く叶えることこそが満足度の向上

鹿児島で生徒・保護者の満足度No.1の高校になる

<保護者の満足>

情報共有(学校・学年・クラス・部活)

情報提供や報告・連絡・相談や節目の便り (BLEND)

部活顧問とのコミュニケーションと目標共有

保護者の負担も大きいことから、部活の目標・指導方針・練習計画等を丁寧に説明し、理解と協力を求めることが必要不可欠である。(BLEND)

生徒を預けることへの安心感こそが満足度の向上

鹿児島で生徒・保護者の満足度N o 1の高校になる

生徒・保護者の満足度が高くなければ学校の存続が危うくなる。

生徒・保護者が一番の応援団であり評価者である。

生徒と学校(教職員)・保護者と学校(教職員)の信頼関係を築くことができれば、満足度は向上しない。

鹿児島への貢献度N o 1の高校になる

学びで得た知識や技術が社会に貢献している。
各種全国大会や県大会での部活・クラス・個人の実績。

→生徒の自己肯定感も高くなっている。

「高校で何を学んだか・経験したか」が問われており、本校の「学歴・経験」が進路実現に大きな結果として現れている。

地域貢献を積極的に行い、公共団体・企業との連携を深めていきたい。特に地元谷山 や鹿児島市での地域貢献を柱とする。

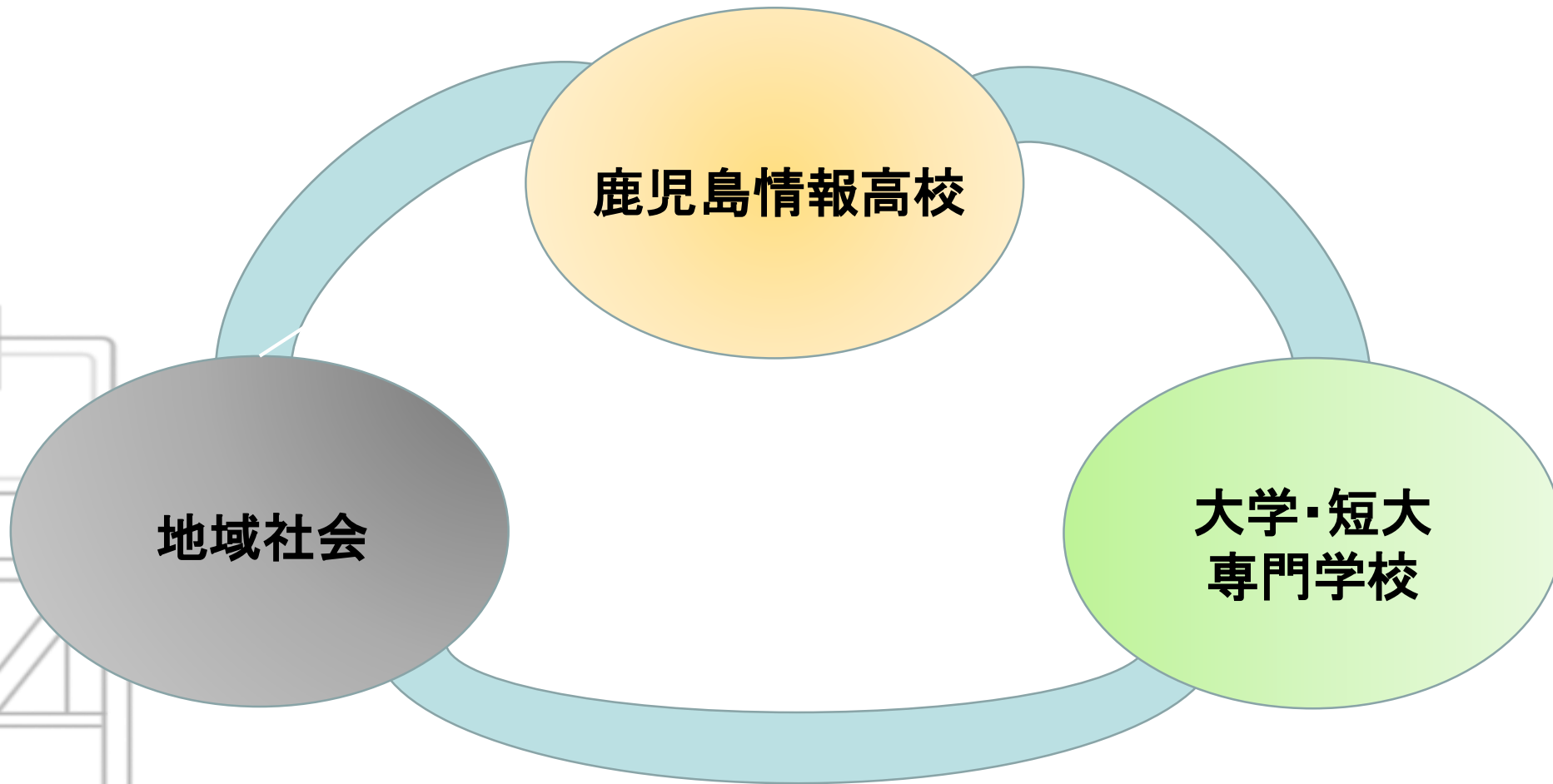
鹿児島への貢献度No.1の高校になる

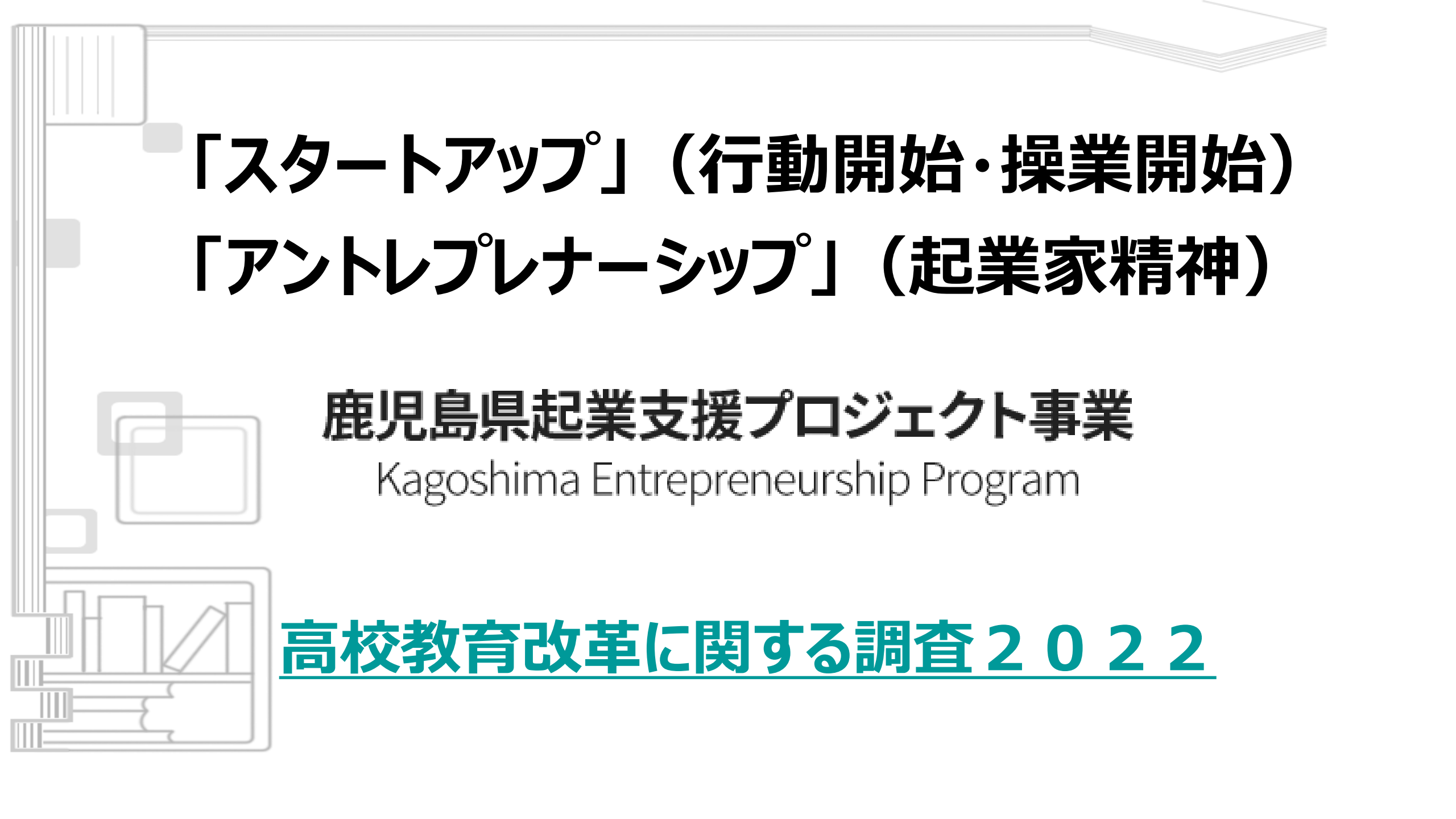
鹿児島県の課題は若者の県外流出ある。本校の学びを通して、生徒が将来的に鹿児島に貢献することが重要であり、卒業生が鹿児島の担い手になることが大切である。

地元企業が求める人財を輩出することが、本校の大きな役割である。このためには、教職員が「地域を知る」・「企業を知る」・「未来を考える」等の知識と技術が必要になる。

生徒・教職員が社会と繋がるが大切である

社会と繋がる





「スタートアップ」(行動開始・操業開始) 「アントレプレナーシップ」(起業家精神)

鹿児島県起業支援プロジェクト事業

Kagoshima Entrepreneurship Program

高校教育改革に関する調査 2022

「気づき・考え・実行する」 学校づくり

＜生徒の視点＞

主体的な学び（なぜ学ぶ・何を学ぶ）

探究活動（PBL）・ICTの活用

集団生活で必要なこと

インクルーシブ教育・身だしなみ 3 原則

PDCAサイクルの実践

計画・実行・確認・改善サイクルの重要性

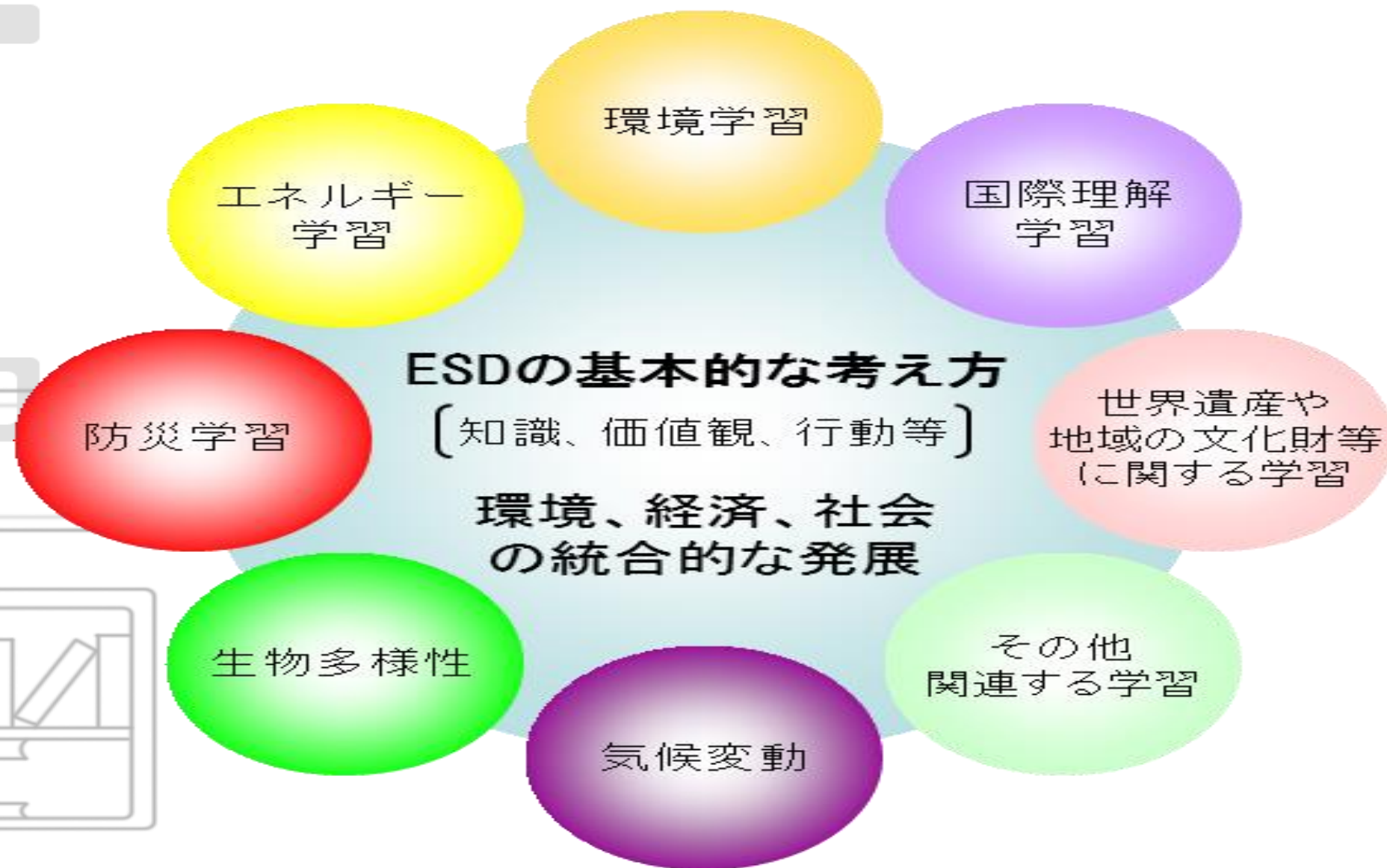
情報GP



SDGs「持続可能な開発目標」



ESD「持続可能な開発のための教育」



「気づき・考え・実行する」 学校づくり

＜教師の視点＞

今、何を学ばせるか

探究活動（PBL）・ICTをどう使うか

学校生活で必要とされていること

インクルーシブ教育・身だしなみをどう伝えるか

人生設計で大切なこと

PDCAサイクルをどう実行させるか

STREAM教育の実践

S : Science (科学)

T : Technology (技術)

R : Robotics (ロボット技術)

E : Engineering (工学)

A : Art (芸術)

M : Mathematics (数学)

「気づき・考え・実行する」 学校づくり

＜教師の役割＞

コーチング・トーチング

学びの方法を導く・生徒の心に灯をつける

伴走者・支援者

未来を生きる子どもたち支える

社会と繋ぎ未来につなげる

個別最適な進路実現

「気づき・考え・実行する」 学校づくり

＜教師の義務＞

インプット・アウトプット

主体的な研修・イベント参加や視察の実施と変化

現状打破

授業改善や組織改編の実施

安心・安全な環境創り

気配り・目配り・心配り

学科選択の学校

学科主導の学科方針に沿ったカリキュラム編成

→2024年度からのワクワクカリキュラムの実現

事業や予算計画の主体は学科

入試判定の責任は学科

スクールポリシー(学科単位)

グラデュエーション・ポリシー(育てる生徒像)

学校教育活動を通じて、どのような資質・能力を育むことを目指すのか。

カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施に関する方針)

「育てる生徒像」の実現のために求められる教育課程をどのように編成・実施するのか。

アドミッション・ポリシー(求める生徒像)

各学校で行われる教育活動に基づき、どのような生徒を受け入れるのか。

鹿児島情報高等学校のあるべき姿　—学園方針—

学校(学業・部活)で、自らの夢を**創**ってほしい

この主語は**生徒**と**先生**です。

生徒・先生が「学び」ながら「創る」学校

生徒・先生・学校の「現状打破」「否定の精神」「正しさの追求」

最後まで目を通していただきありがとうございました